1.　教員および授業の概要

①教員名：村井重樹（Murai Shigeki）

②担当科目：地域開発政策専門講義 13（理論社会学）
　　地域開発政策研究指導Ⅰ～Ⅳ

③教員のプロフィール
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学
博士（社会学）（慶應義塾大学）

④所属学会
日本社会学会、日本社会学史学会、日本社会学理論学会、関東社会学会、日仏社会学会、地域社会学会、三田社会学会

⑤研究領域や関心を持っているテーマ
・理論社会学
・文化社会学

⑥研究指導方針
　社会学理論・方法論に基づいた社会分析を行えるように研究指導する。そのためには、さまざまな立場が存在する社会学理論・方法論に関する理解を深めると同時に、それぞれの理論的・方法論的な妥当性と限界についても検討し、各自の研究への適用可能性を探っていくことが必要になる。

⑦指導可能な研究テーマ（あるいは過去（現在）に指導した研究テーマ）
・社会学の理論・方法論の研究
・社会学理論に基づいた社会分析

2.　研究業績リスト（ ①著書　②論文 ）

①著書
(1) 大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編集委員、見田宗介編集顧問、『現代社会学事典』弘文堂、2012 年（担当箇所：「慣習」「原始社会」「第一次制度／第二次制度」「価値‐態度体系」）
(2) ベルナール・ライール、『複数的世界――社会諸科学の統一性に関する考察』青弓社、2016 年（担当箇所：「全訳」「訳者あとがき」）
(3) 友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編、『社会学の力――最重要概念・命題集』有斐閣、2017 年（担当箇所：「ハビトゥスと文化的再生産」）

②論文

(1)「分化した社会におけるハビトゥス――ライールのブルデュー批判を手がかりに」『日仏社会学会年報』第 28 号、2017 年、55-73 頁

(2)「食の実践と卓越化――ブルデュー社会学の視座とその展開」『三田社会学』第 20 号、2015 年、124-137 頁

(3)「ハビトゥス論の現代的課題――集団から個人へ、あるいは統一性から多元性へ」『哲学』第 128 集、2012 年、87-108 頁

(4)「習慣の社会理論――ハビトゥス概念の批判的継承」慶應義塾大学大学院社会学研究科博士学位論文、2011 年、1-151 頁

(5)「諸個人のハビトゥス――複数の諸性向と文化的実践の諸相」『年報社会学論集』第 23 号、2010 年、176-187 頁

3. 学生に対するメッセージ

社会学は「何でもあり」のように見えます（それはそれで間違っていません）が、それ独自の理論・方法論を有する一専門科学です。このような社会学固有の視点を獲得するためには、非常に根気のいる作業を伴いますが、それは同時に新しい物事の見方を発見する楽しい作業でもあります。こうした地道な作業を積み重ねていくなかで自分の研究テーマをしっかりと確立し、それと真摯に向き合いながら研究を進めていってもらいたいと考えています。